

大学生をリフレクティブラーナーとして育てる

上田 勇仁(帝京大学 高等教育開発センター 助教)

講師略歴

愛媛大学法文学部在学中、スチューデント・キャンパス・ボランティア(SCV)や愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)に参加し、大学教育に興味を持つ。大阪大学大学院博士後期課程修了。博士(人間科学)。専門は大学教育および教育工学。大手金融機関向け e-learning 教材制作会社勤務後、大正大学専門職職員(FD 担当)を経て、2017年に徳島大学高等教育開発センターに特任助教、2019年に厚生労働省が所管する職業能力開発総合大学校に特任助教として勤務し、2025年4月より現職。帝京大学の FD プログラムや初年次教育科目「教育学」などを担当している。

プログラム概要

大学教育において、リフレクションが注目されています。リフレクションとは、自身の経験や行動を振り返り見つめ直すことで、実習授業での報告書やプロジェクト学習の報告会もリフレクションとして捉えることができます。また、就職活動においてエントリーシートを記述したり、カリキュラムを通じて何を学んだか記述する学習ポートフォリオもリフレクションとして捉えることができます。リフレクションを通じて、獲得した学習内容やスキルを言語化することができますが、学習者によっては断片的な思考に終始してしまい、うまくリフレクションできないこともあります。

このプログラムでは、リフレクションが得意な大学生(=リフレクティブラーナー)を育てていくために、リフレクションの方法やリフレクションを促す「問い」について講義やワークを通じて理解を深めていくことを目的としています。

準備物・事前課題

持参物: 学生の到達目標が記されたテキスト(例: 授業のシラバス、所属大学のディプロマ・ポリシーなど)

主な受講対象者

- ・これから教育活動にリフレクションを取り入れたい教職員
- ・実習、プロジェクト学習、サービスラーニングなど経験を中心とする授業を担当している教員
- ・就職活動の助言指導に関わっている教職員
- ・ポートフォリオに関わっている教職員

到達目標

1. 大学生のリフレクションを支援するための理論的な枠組みを説明することができる。
2. 授業や学士課程教育における教育目標を参照し、リフレクションの方針を記述することができる。
3. リフレクションの方針に則して、リフレクションを促すための問いを記述することができる。
4. 参加者同士の積極的なコミュニケーションに貢献することができる。